

研究の概要

1 研究の目的

- (1)研究主題 (2)研究仮説

2 これまでの経緯

- (1)生徒の実態調査 (2)墨田区教育委員会「特色ある学校づくり推進研究協力校」

3 研究の内容

- (1)少人数指導及びティーム・ティーチングの実施 (2)研修会の実施
- (3)全教科で既習内容の確認と確実に身に付けることを明確にした授業の実施
(向島中ミニマム)
- (4)学力調査及び授業アンケートの実施

4 研究の結果

- (1)都学力調査 (2)授業アンケート

5 成果と課題

- (1)成果 (2)課題



1 研究の目的

(1) 研究主題

『わかるできる授業づくり』

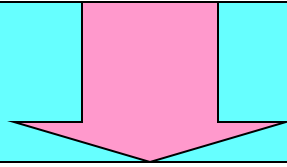
—教師が「授業力」を高め、

生徒の「確かな学力」の向上を図る—

研究主題に基づき研究仮説を設定し、実践研究を行い、その有効性を実証する。

(2) 研究仮説

従来から、全教科で「ねらい」「おおむね満足できる学習状況」をあらかじめ示した授業を実施



「東京ミニマム」の趣旨を踏まえ、既習内容の確認と、確実に身に付けることを明確にすればさらに学力向上。
→「東京ミニマム」の本校版「向島中ミニマム」の作成

国語、数学、理科で、少人数指導やチーム・ティーチングを、生徒の実態や学習内容に応じた学習集団の編成や教師の役割分担を様々に工夫して行うことで、生徒のつまずきの発見や基礎・基本の定着、発展的な学習に効果が上がる。

2 これまでの経緯

(1) 生徒の実態調査

「墨田区開発的学力向上プロジェクト」学習到達度調査

	総観点数
第1学年	13
第2学年	16
第3学年	16
合計	45

国語 5観点
社会、数学、理科、英語は
4観点

1学年は、国語、社会、数学、理科
2,3学年は、国語、社会、数学、理科、英語で
実施

2 これまでの経緯

(1) 生徒の実態調査

「墨田区開発的学力向上プロジェクト」学習到達度調査において本校の平均到達度が目標値を超えた観点数

	総観点数	平成19年度	平成20年度
第1学年	13	9	9
第2学年	16	5	9
第3学年	16	2	6
合計	45	16	24

2 これまでの経緯

(1) 生徒の実態調査

「墨田区開発的学力向上プロジェクト」学習到達度調査において本校の平均到達度が目標値を超えた観点数

	総観点数	平成19年度	平成20年度
第1学年	13	9	9
第2学年	16	5	9
第3学年	16	2	6
合計	45	16	24

本校の平均到達度が目標値を超えた観点数が少ない。

平成19年度の数学では、全学年で平均到達度が目標値を超えた観点がなかった。

PISA () 年) アンケート

- ① 将来自分の就きたい仕事で役に立つから、努力して「 」の科目を勉強することは大切だ。
- ② 将来勉強したい分野で必要になるので、「 」の科目を学習することは重要だ。
- ③ 私は自分の役に立つとわかっているので、「 」を勉強している。
- ④ 「 」の科目を勉強することは、将来の仕事の可能性を広げてくれるので、私にとってやりがいがある。
- ⑤ 「 」を学ぶことで、興味・関心が広がり、心豊かに生活を送れると思う。

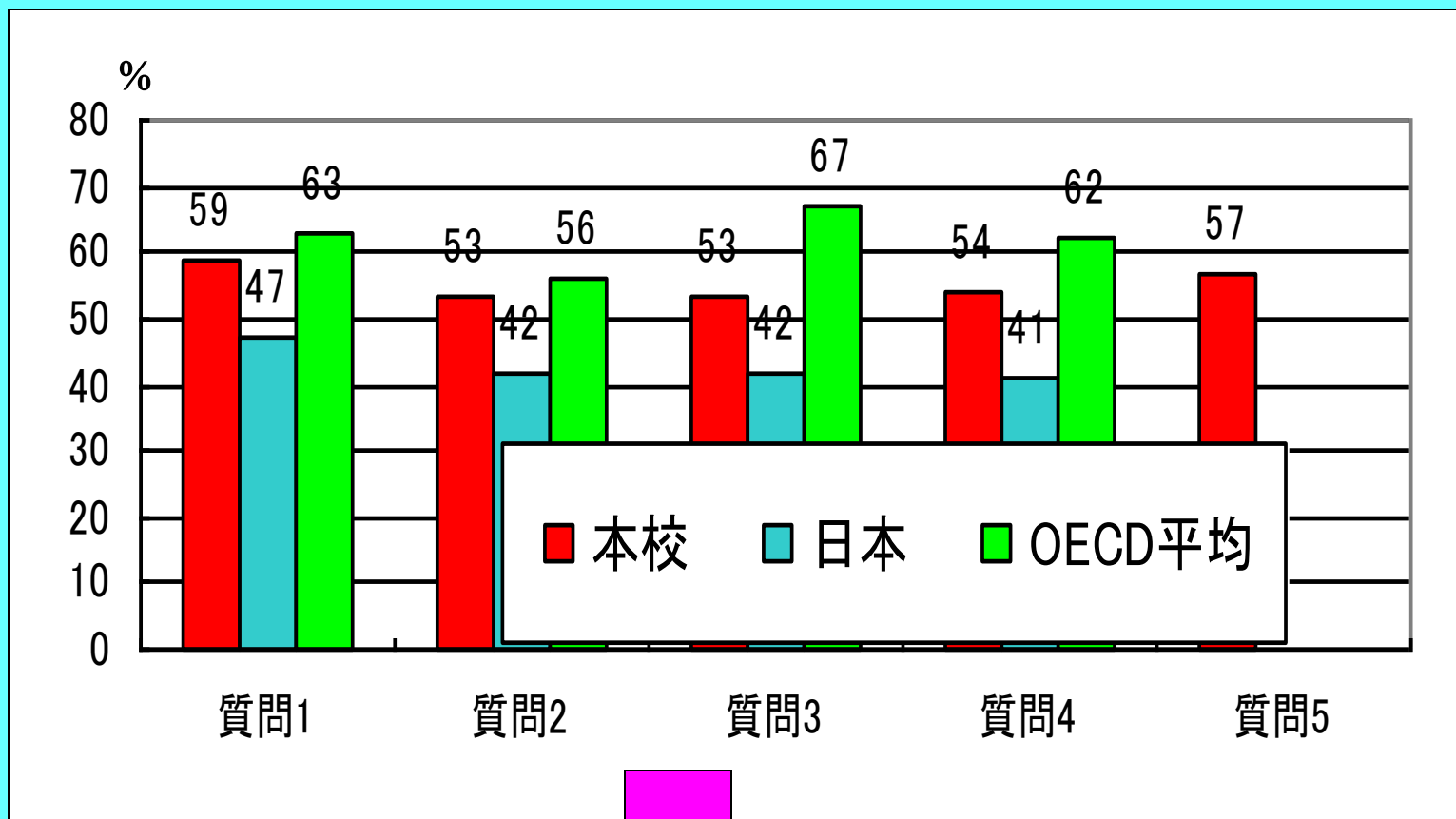
※ 「 」教科名

PISA (年) アンケート

- ① 将来自分の就きたい仕事で役に立つから、努力して「 」の科目を勉強することは大切だ。
- ② 将来勉強したい分野で必要になるので、「 」の科目を学習することは重要だ。
- ③ 私は自分の役に立つとわかっているので、「 」を勉強している。
- ④ 「 」の科目を勉強することは、将来の仕事の可能性を広げてくれるので、私にとってやりがいがある。
- ⑤ 「 」を学ぶことで、興味・関心が広がり、心豊かに生活を送れると思う。

※ 「 」教科名

PISAアンケートの比較（理科）



本校の生徒は、学力に課題があるものの、学ぶ意欲については、日本の平均を超えていることが分かり、授業改善による効果が期待できる。

(2) 墨田区教育委員会「特色ある学校づくり推進研究協力校」での研究

【研究主題】

『わかるできる授業づくり』—教師が「授業力」を高め、生徒の「確かな学力」の向上を図る—

【ねらい】

「確かな学力」の向上

「授業力」の向上

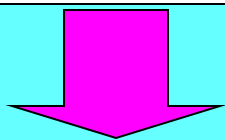
【研究仮説】

・ 教師が授業力を高めれば、生徒の確かな学力の向上を図ることができる。

・ 「**確かな学力**」＝「**学ぶ力（学びに向かう力）**」＋「**学んだ力（身についた力）**」と定義づけ、生徒の学ぶ力（学びに向かう力）を引き出すことができれば、学んだ力（学んで身についた力）を伸ばすことができる。

【研究内容】

- ・ 全教科において、「ねらい」「おおむね満足できる学習状況」を **あらかじめ示した授業**を実施。
- ・ 教師と生徒がそれぞれ授業で行うことを明確にし「教学」と名付け、各教室に掲示。
- ・ 前期（7月）と後期（12月）に「**生徒による授業評価**」（以下「授業評価」）実施。



【成果】

- ・ **学力や学習意欲の向上**が区調査や授業評価の結果に現れた。

【課題】

- ・ さらなる学力向上のためには、**少人数指導の工夫や既習内容の確認、つまずき防止**のための具体的な取り組みが必要。

3 研究内容

(1) 少人数指導及びチーム・ティーチングの実施

ア 国語

生徒の発表活動や学び合いを促進するために、**チーム・ティーチングでの授業者の役割分担や習熟度による個別指導の工夫**を行った。

イ 数学

2学級を習熟度別（**発展・基礎・定着**）に3つの学習集団を編成する少人数指導を実施した。

少人数学習指導員を活用して、個別指導を充実するために**基礎コースでのチーム・ティーチングや取り出し指導**を実施した。

ウ 理科

1学級を習熟度が平均になる2つの学習集団に分ける少人数指導を行い、学習集団内には、生徒同士の学び合いを促進するために4段階の習熟度の生徒が含まれる学習班を編成した。

▼ 習熟度により男子はABCD、女子はアイウエの各4段階に分ける。

習熟度（順位）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男子	A	A	A	B	B	B	C	C	D	D
女子	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ	ウ	エ	エ	エ

▼ 習熟度の異なる生徒が隣り合うようにし、各班の習熟度を平均にする。

エ	B	ウ	A		
ウ	A	イ	D		
イ	D	ア	C	エ	B
ア	C	エ	B	ウ	A
		教卓			

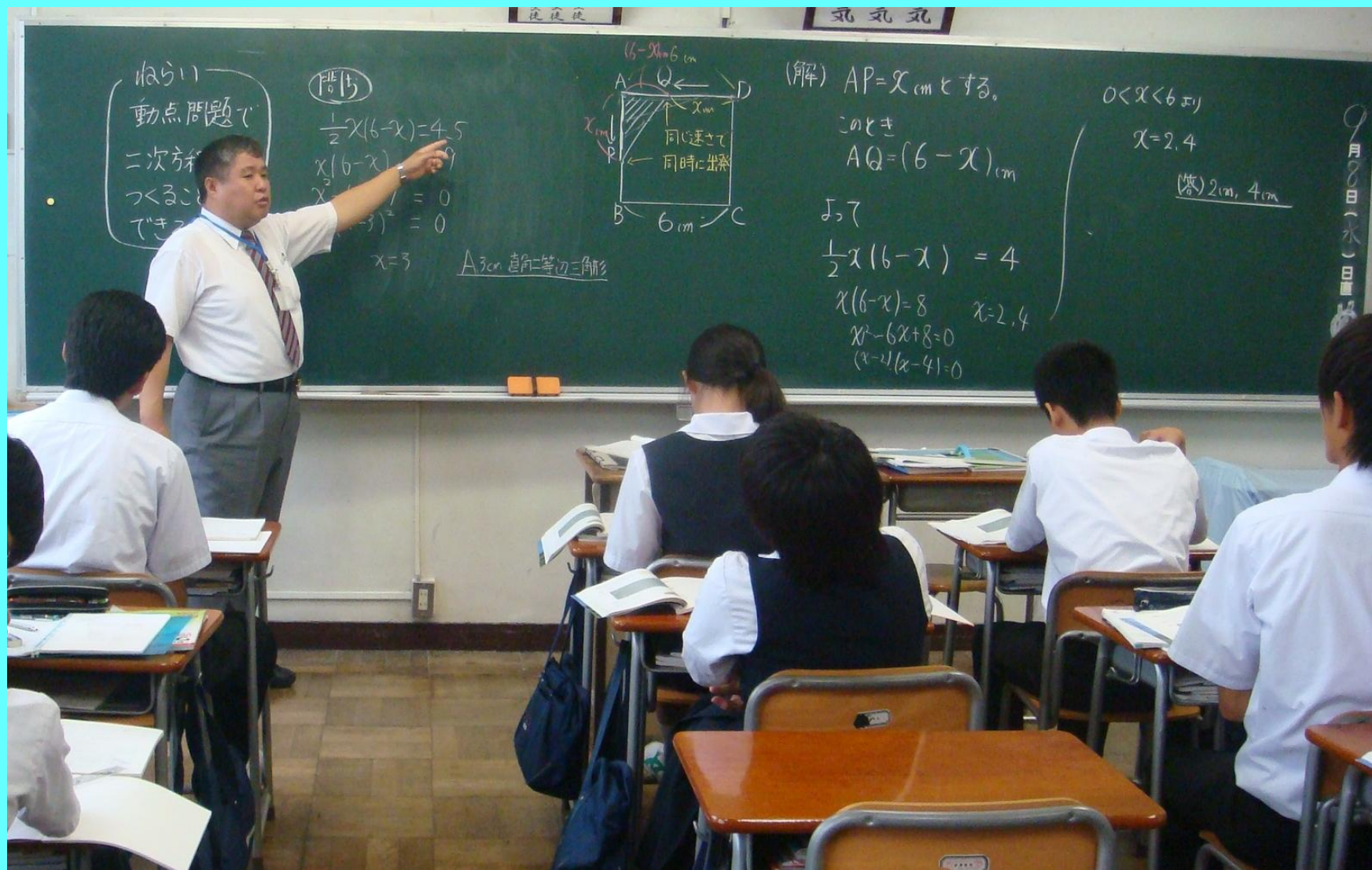
国語チームティーチング

T2
個別指導

T1
授業の進行



数学習熟度別少人数授業



(2) 研修会の実施

ア 東京ミニマムの活用について

既習内容の確認やつまずき防止のための具体的な取り組みを検討するために、東京都教育委員会が作成した「**東京ミニマム**」(児童・生徒の**つまずきを防ぐ指導基準**)について、教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課より指導主事 山本周一先生、山村智治先生、齋藤圭祐先生をお招きしてご指導いただいた。

イ 学力向上アドバイザーによる指導

学力向上アドバイザーとして、東京女子体育大学教授 田中洋一先生、東京都教職員研修センター教授 中尾豊三郎先生をお招きして、**継続的に本研究についてご指導いただいた。**

(3) 全教科で既習内容の確認と確実に身に付けることを明確にした授業の実施（向島中ミニマム）

▼「向島中ミニマム」を明示した指導案

8 本時の授業（時間目）

(1) 既習内容と本時の学習の関連

学習の素地として確認しておくこと
（向島中ミニマム①）

↓

本時のねらい

↓

次の学習に向けて確実に身に付けること
（向島中ミニマム②）

(2) 評価（おおむね満足できる学習状況）

(3) 指導の工夫

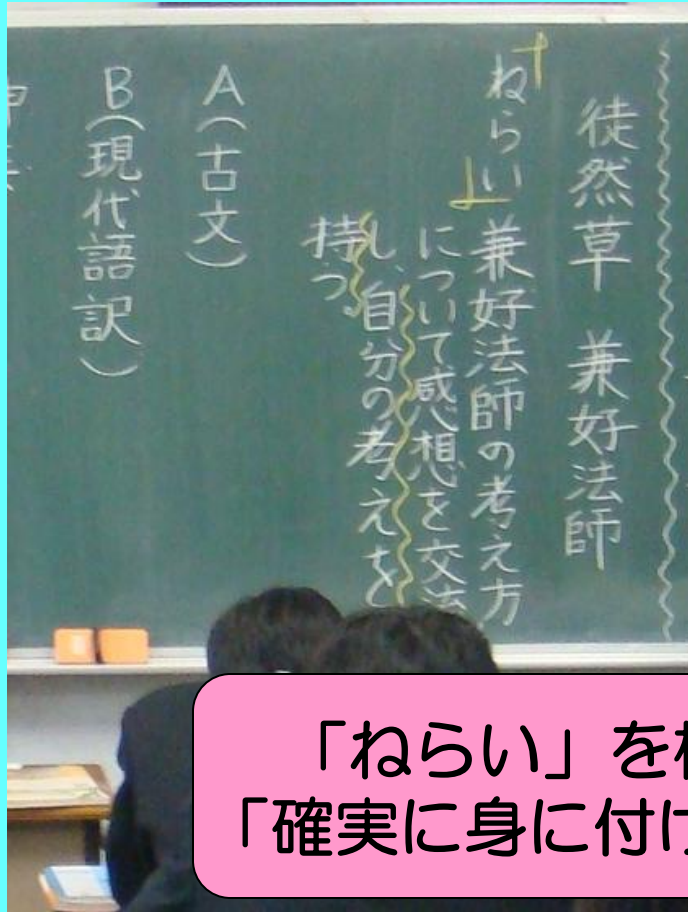
(4) 展開

向島中ミニマム①

学習の
つまずき防止

向島中ミニマム②

授業の「板書」から



▲ 国語



▲ 数学

(4) 学力調査及び授業アンケートの実施

ア 都の学力調査の問題の利用

都が過去に実施した国語と数学の学力調査の問題を2年生対象に5月19日、11月11日に実施

「はい」「どちらかといえばはい」
「どちらかといえばいいえ」
「いいえ」で回答

イ 授業アンケートの実施

全教科で前期（7月末）と後期（12月末）に実施

▼授業アンケート（生徒による授業評価）

- ① 先生は、分かりやすく、興味を持てる授業を行おうと**努力**していますか
- ② 授業は、**チャイム**で始まり、チャイムで終わっていますか。
- ③ 元気よく**挨拶**する教科ですか。
- ④ 先生は、授業の**ねらい**や学習内容をはっきり伝えていきますか。
- ⑤ 先生の**説明**は、分かりやすいですか。
- ⑥ 先生の**板書**（電子黒板・プリント等）は見やすいですか。
- ⑦ 先生は、授業中や授業以外の時間に分からない所やできない所を、**解決**してできるようにしてくれていますか。
- ⑧ 先生は、学習に集中できる**雰囲気**をつくっていますか

太字は、授業評価の推移のグラフに対応

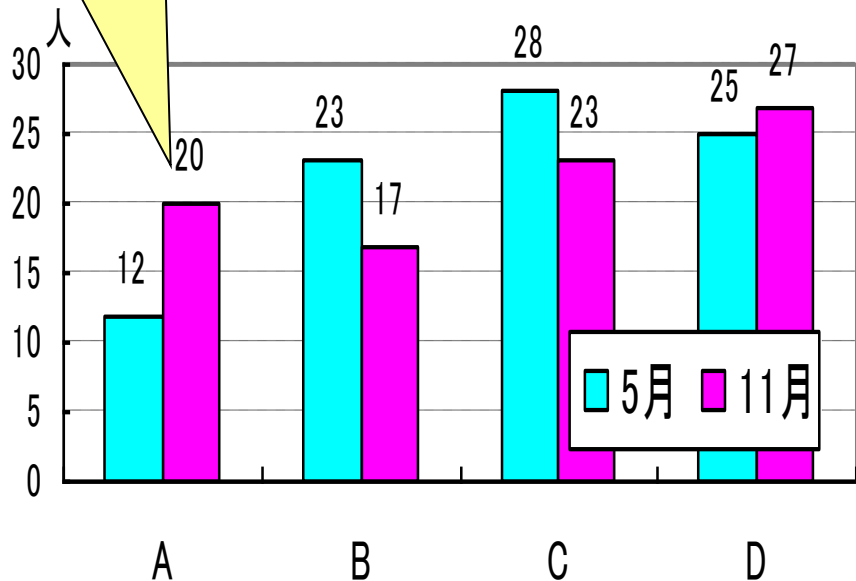
4 研究の結果

(1) 都の学力調査

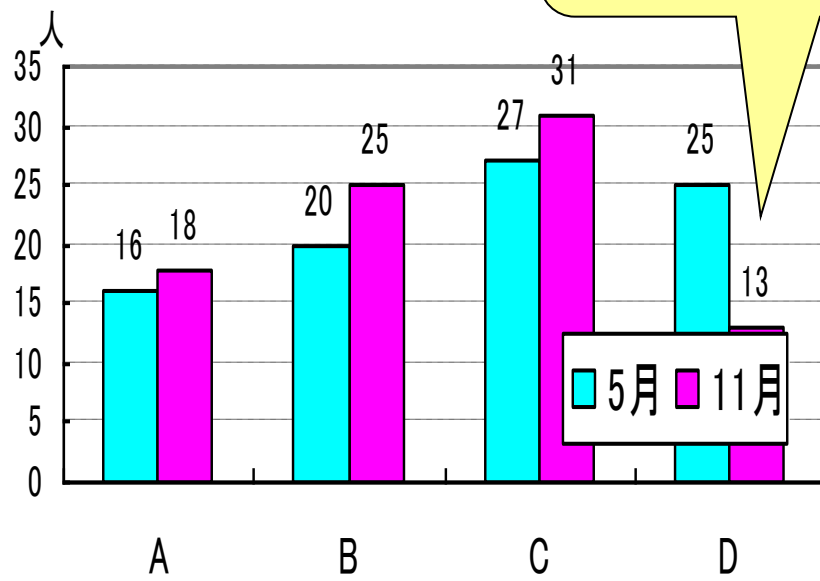
	国語 正答数		数学 正答数	
	5月	11月	5月	11月
A層	25~26	23~25	34~36	27~31
B層	23~24	21~22	30~33	21~25
C層	20~22	18~20	23~29	14~20
D層	0~19	0~17	0~22	0~13

A層が
約2倍

D層が
約1/2倍

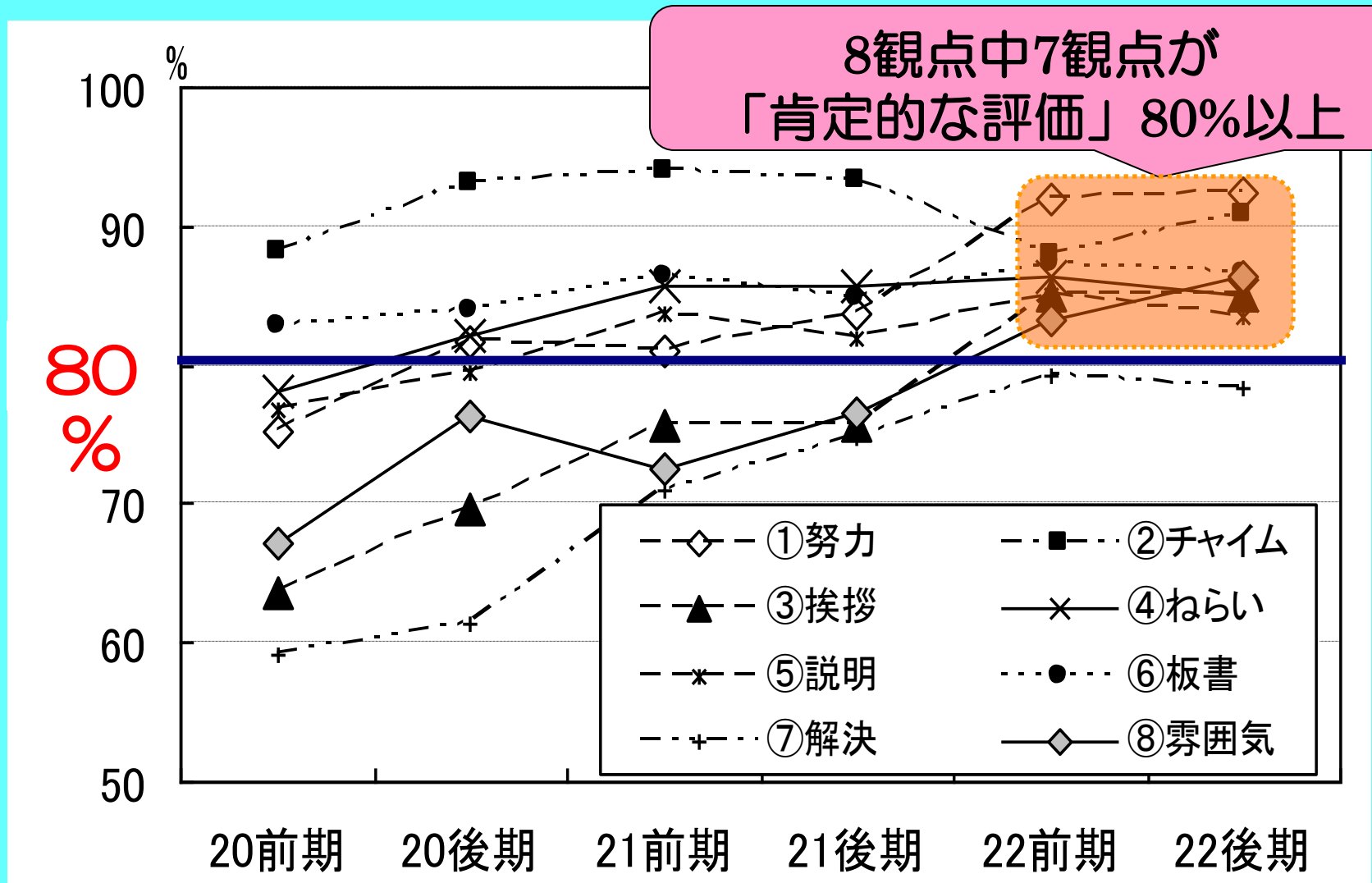


▲国語の各層の推移



▲数学の各層の推移

(2) 授業アンケート（生徒による授業評価）



▲授業評価の推移

5 成果と課題

(1) 成果

「授業のねらい」「おおむね満足できる学習状況」「既習内容と本時の学習の関連」「生徒のつまずきを防ぐ手立て」を明確にする**授業展開を確立**できた。(向島中ミニマム)

国語や数学では、少人数指導やチーム・ティーチングなどの**指導法の工夫により、学力の向上**が見られた。

研究の取組が生徒に受け入れられ、**生徒による授業評価が向上**した。

(2) 課題

学力調査の資料を広く集め、生徒の学習のつまずきの原因を探り確認するべく**既習内容の明確化**。

調査結果を踏まえた、**単元・題材等を網羅する内容での「向島中ミニマム」**作成。